

2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2007年 1月23日

I 概要

実践団体・担当者名	富山県立南砺総合高等学校 福野高等学校 (担当者：永田 幸久)	
連絡先	電話 0763-22-2014	
プランタイトル	『地域の文化財と防災教育』	
目的	火災や地震を想定し、文化財を保護する方策や自分で自分の身を守る方法を考え、防災意識を高める。さらに本校にある国指定重要文化財「巖浄閣」の活用により、文化財への親しみを感じるにより、文化財保護の意識を高める。	
プランの概略	<p>(1) 生徒防災委員会（巖浄閣学習室）による防災委員の育成</p> <p>第1回 巖浄閣の歴史と過去の災害 第2回 液状化実験 第3回 施設面での備え 第4回 巖浄閣の減災についての取り組み 第5回 クロスロードによる災害時想定 第6回 防災ポスター作成 第7回 世界文化遺産「五箇山合掌集落」の防災に学ぶ（郷土文化講座参加） 第8回 防災コーナーづくり（文化展） 第9回 心肺蘇生法について学ぶ</p> <p>(2) 避難訓練の充実(地震対応の導入、消火訓練、スモーク訓練等) (3) 体育大会の種目検討（防災レースの導入） (4) 巖浄閣企画展の実施 (5) 巖浄閣の放水銃等の使用実演</p>	
プランの対象と参加人数	全校生徒（576）（うち防災委員15名）	
実施日時	平成18年6月～平成19年1月	
主な実施場所	国指定重要文化財「巖浄閣」学習室	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①南砺総合高校平高校 ②合掌集落保存財団 ③平消防団 ④福野消防署
	連携したきっかけ・理由	①～③第7回 防災委員会「世界文化遺産の防災見学」のため ④夏、冬の避難訓練のため
	連携団体へのアプローチ方法	インターネットで調べ、平高校、南砺市役所、平区長、平在住の他校職員、合掌集落保存財団、平消防団などに電話連絡し、アポイントを取って、伺った。
	連携団体との打合せ回数	①～③ メール 0.5時間×6回，出張 3時間×1回 電話 0.5時間×10回 ④出張 1時間×3回
連携団体との役割分担	①～③夏季集中セミナーの民謡体験講座に防災体験や講話等の防災教育を組み込み、世界文化遺産への興味関心と防災を総合的に学習できるよう企画提案した。 ④地震対策やスモーク訓練に対する助言を得た。	

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	3名
	外部スタッフの総人数	名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 澤中 幹夫（富山県立南砺総合高等学校 福野高等学校長） 企画制作 上銘 正史（富山県立南砺総合高等学校 福野高等学校教頭） 企画制作 永田 幸久（富山県立南砺総合高等学校 福野高等学校教諭）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	17年12月 ～ 18年 1月
	立案時間	2時間× 3回 1時間× 3回
	上記のうち打合せ回数	3回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	・防災という意識は校内には薄く、教職員や生徒に防災や減災について取り組んでいこうとする意識を高めるために、南砺総合高校間の連携行事や学校行事と連動させる行事を入れた。	
プラン立案で 苦労した点	・「五箇山の郷土文化に触れる（民謡体験）」という他校主催の南砺総合高校連携行事に、主催者側の趣旨とは違う「五箇山の防災研修」という目的で参加しようとしていたため、意思の疎通を図り、日程の変更等に理解と御協力をしていただくのに苦労した。しかし、本校の生徒だけでなく参加した生徒全員に防災の意識を高めさせることができたことは良かった。	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	3名
	外部スタッフの総人数	1名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 澤中 幹夫（富山県立南砺総合高等学校 福野高等学校長） 企画 永田 幸久（富山県立南砺総合高等学校 福野高等学校生徒指導主事） 制作 高岡 稔（富山県立南砺総合高等学校 福野高等学校防災係） 企画 高田 立（富山県立南砺総合高等学校 平高等学校教諭）
準備に要した日 数・時間	準備期間	18年 4月 ～ 18年10月
	準備総時間	2時間× 9回（防災委員会計画） 2時間× 3回（避難訓練、体育大会、巖浄閣企画展）
	上記の内打合せ回数	5回（合掌集落保存財団、平消防団、福野消防署等）

教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	富山県立南砺総合高等学校 平高等学校
	どのように働きかけたか	世界遺産の防災についての講義と防災の体験を取り入れていただいた。
	結果	生徒は積極的に放水銃の説明を聞いて、放水銃の訓練に参加していた。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	同窓会役員 資料・展示物提供者（家族、子息） 同窓会員、地域住民
	どのように働きかけたか	PTA役員会でPR（同窓会役員） 巖浄閣企画展の案内状配布（資料・展示物提供者） 新聞に案内の記事を掲載（同窓会員、地域住民）
	結果	150名の参加をいただいた。
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	全校生徒の保護者（576戸）
	どのように働きかけたか	文化展の案内に「防災コーナー」の案内を記載し配布
	結果	30名程度見学者有り
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	①クロスロード 一市民編（チームクロスロード） ②防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション（ナカニシヤ） ③文化財の防災計画（朝倉書店）
	入手先・入手方法	インターネットで調べ （有）森田書店より購入
	機材・教材選定の理由（な ぜこの機材・教材を選ん だのか）	現在災害とは無縁の福野高校生に、災害時の重大な決断の場面を想定し、自らの問題としてとらえさせ、また、他人の異なる意見にも気づかせるため。
参加者の募集	募集方法	①生徒会総務委員会（防災委員会） ②生徒会運動委員会3年（体育大会） ③体育大会、避難訓練（全校生徒） ④巖浄閣企画展（一般）
	募集期間	18年 4月28日
	参加予想人数	12名+5名+576名+50名
	実際の参加人数	15名+5名+572名+151名

	募集方法の成功点	<ul style="list-style-type: none"> ● ①当初は防災委員会のメンバーとして、1年生の総務委員10名と2年生の総務委員長、副委員長の計12名を予定していた。しかし、休みがちでカウンセリングを行っていた生徒に、この委員会のリーダーとして他の委員の指導をしてみないか誘ったところ、本人は了承し、その後リーダーとしての自覚も芽生え、第1回から第7回委員会終了まで学校も一度も休まず、後輩の指導にあたり、さらに、職員の前で委員会報告も行った。また、その子をバックアップしてくれる者も2名現れ、委員会全体の防災意識の高揚に一役買った。
	募集方法の失敗点	<ul style="list-style-type: none"> ● ④の巖浄閣企画展については、計画的にPRされ、150人もの入場者がいたが、①の第8回防災委員会（文化展）での防災展示は1日のみの開催という事や、地域の方や同窓生へのPRが遅れ、見学者は30人程度と伸びなかった。
準備で苦労した点・工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成9年に国重要文化財の指定を受けた「巖浄閣」は、平成14年から4年にわたり、大がかりな解体・保存修理事業が行われ、平成17年8月に建築当時の姿に復元された。その際両脇に耐震棟も設置された。巖浄閣は重要文化財であり、耐震に関する技術的工夫を生徒が行うことに慎重な考えも多く、徐々に減災を工夫していくことになり、今年度は窓ガラスの防災フィルム貼りと生徒、教職員の意識改革を中心に行った。 	

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月			
12月	○「企画書」の作成及びチャレンジプランへの申し込み		
2006 1月			
2月	○2/14 防災計画企画立案	○2/1 連携団体とのコンタクト	○2/18 計画発表
3月			
4月	○「実践企画書」及び「資金計画書」の作成 ○4/24 「防災委員会計画」の作成	○4/28 生徒防災委員会（活動方針説明）	
5月	○前期避難訓練企画	○前期避難訓練打ち合わせ（消防署、警備保障会社）	○5/16 前期避難訓練（地震対策追加）
6月	○6/1 防災レース打ち合わせ ○6/22 防災委員会計画」の作成	○6/1 平地区下見（第7回防災委員会のため） ○6/7 防災レース要項作成及び準備 ○6/21 文化財保存財団等と連絡	○6/6 巖浄閣保存活用委員会 ○6/9 防災レース実施（体育大会） ○6/23 教職員心肺蘇生法講習会（巖浄閣）
7月		○7/20 巖浄閣企画展（第9回）打ち合わせ	○7/12 学校評議員会（巖浄閣利用） ○7/3 第1回防災委員会（巖浄閣の歴史と過去の災害） ○7/7 第2回防災委員会（液状化） ○7/11 第3回防災委員会（施設面での備えと自室の見直し） ○7/13 第4回防災委員会（巖浄閣の防災） ○7/18 第5回防災委員会（精神面での備えークロスロードー） ○7/19 第6回防災委員会（防災ポスターの作成の説明）
8月			○8/10,11 第7回防災委員会（世界文化遺産の防災研修） ○8/16~22 巖浄閣企画展（第9回）
9月			
10月	○10/5 防災コーナー（文化展）の計画説明	○10/16 各コーナーの原稿提出（各コーナー担当者）	○10/5~26 第8回防災委員会（文化展で防災コーナー展示＝委員会のまとめ）
11月	○後期避難訓練企画		
12月			○12/5 後期避難訓練（スモーク訓練含む）
2007 1月	○1/9 第9回防災委員会（心肺蘇生法講習会）企画	○1/7 消防署との連絡	○1/19 第9回防災委員会（心肺蘇生法講習会）

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	第1回防災委員会「巖浄閣の歴史と過去の災害について」	第2回防災委員会「液化化実験」
実施日	平成18年7月3日	7月7日
所要時間	45分×2	45分×2
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 国指定重要文化財である「巖浄閣」の歴史を知り、「巖浄閣」への親しみを深める。 ● 過去の災害から、防災の必要性を知り、防災意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地震の際に起こる現象を、実験によって確かめ、実際に起こった被害の原因を理解する。
生成物	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1防災委員会記録(感想シート等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回防災委員会記録(感想シート等) ● 記録DVD
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 福野高校の前校舎である「巖浄閣」の命名の由来や、本校の歴史を知る。 ● 地域の過去の災害の時期や被害状況について学習し、防災について考える意義と防災委員の役割を考える。 ● 地震の発生確率や断層などの専門用語について簡単に学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災委員会のリーダーが方法を説明する。(事前に数回実験済み) ● 実験Ⅰ：湿った(表面は乾いている)砂に振動を与える ⇒表面に水が浮き出てくる。 ● 実験Ⅱ：ピンポン球を埋めて振動を与える。 ⇒ピンポン球が浮き出す。 ● 実験Ⅲ：建物の模型を置いて振動を与える。 ⇒地上に建っただけの物は沈下するか倒れる。
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「巖浄閣」が校舎だった頃の福野高校の様子や補修・解体工事の様子を収めたDVD ● テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水槽 ● 建物模型(石) ● 湿った砂 ● ピンポン球 ● テキスト
場所	「巖浄閣(学習室)」	「巖浄閣(学習室)」

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	第3回防災委員会「施設面での備え」	第4回防災委員会「巖浄閣の防災」
実施日	7月11日	7月13日
所要時間	45分×2	45分×2
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害の中で地震に焦点を絞り、引き起こされる危険とその災害を最小限に食い止める方法について考え、減災についての意識を高める。 ● 「巖浄閣」についてどのような減災を施すことができるかを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 検討した減災方法のうち、許可の降りた方法を実施する。
生成物	● 第3回防災委員会記録	● 記録写真 ● 防災フィルムの貼られた窓ガラス
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地震により引き起こされる危険にはどのようなものがあるか話し合う。 ● それらの被害を最小限に食い止めるにはどのような方法があるか話し合う。 ● DVDを観て、減災の工夫について知識を深める。 ● 「巖浄閣」の1階から2階までの隅々まで見て、危険箇所を調査し、減災のためにできる工夫を考える。 ● 意見を持ち寄り、防災委員会としての意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 手順を説明する。 ● 新聞紙を敷き、その上に窓ガラスをのせる。 ● フィルムを窓ガラスにあて、物さしで隙間無く敷き詰めて寸法を測る。 ● ガラスをきれいに拭き、中性洗剤を吹きかける。 ● フィルムを切り、空気を抜きながらガラスに貼る。 ● 全部のガラスが終わったら、水分を拭き取り、棧にはめこむ。
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ● テキスト ● DVD「発掘あるある大事典」 ● 巖浄閣の見取り平面図 ● DVD「必須!!防災知識」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 軍手 ● ものさし ● 中性洗剤 ● スプレー ● 防災フィルム ● カッター ● 新聞紙 ● 雑巾
場所	「巖浄閣(学習室)」	「巖浄閣(1階廊下)」

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	第5回防災委員会「精神面での備えークロスロードー」	第6回防災委員会「防災ポスター作成」
実施日	7月18日	7月19日～8月9日
所要時間	45分×2	45分×2
達成目標	● 災害時の重大な決断場面を想定し、災害対応を自らの問題としてとらえ、自分とは異なる意見・価値観の存在に気づかせることにより、内面からも災害時に対しての心構えを作っていく。	● 防災ポスターコンクール(内閣府防災推進協議会)に応募するに当たり、美術部にもアイデアや制作に協力を依頼し、防災についての意識を広げていく。
生成物	● 第5回防災委員会記録 (意見の集約、予想外の意見、迷ったジレンマ)	● 防災ポスター
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的と方法を説明する。 ● 5名ずつ2班に分かれ、それぞれの班に防災リーダーがつき、ジレンマを読み上げるなど進行する。 ● 自分の意見を用紙にまとめてからイエス・ノーカードを選び、裏かえしのまま提示する。 ● 一斉にカードを開け、多数派のものは景品を獲得する。 ● 意見交換をする ● 全て終了した時点で、予想外だった他人の考えや迷ったジレンマと理由をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的と方法、期日の説明をする。 ● テーマを決め、下書きを完成する。 (締め切りは8月9日) ● 美術部への今までの取り組みを説明する。
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ● クロスロード ー市民編ー (チームクロスロード) ● 防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション (かにや) ● 文化財の防災計画 (朝倉書店) ● テキスト 	A3の画用紙10枚
場所	「巖浄閣(学習室)」	「巖浄閣(学習室)」

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	第7回防災委員会「世界遺産の防災に学ぶ」	第8回防災委員会「文化展防災コーナー展示」
実施日	8月10日～11日	10月5日～27日
所要時間	45分×10	45分×6
達成目標	● 集中セミナー「郷土文化講座」に参加することにより、世界文化遺産である「五箇山合掌集落」に赴き、郷土の文化に触れたり、文化財の保護にどのような工夫と努力がなされているかを見学することにより、文化財への興味関心を深め、文化財保護の意識を高める。	● 第1回から第7回までの防災委員会や学校行事で取り組みをまとめて発表することにより、本校の生徒や教職員、そして保護者の方々にも防災についての意識を高めてもらう。
生成物	● 記録(ビデオ、写真、感想文等)	● 第7回までの取り組みの様子をまとめたDVD ● 各回毎に防災委員会の内容をまとめたガンピ等
進め方 (箇条書き)	8月10日 8:10 福野高校発 9:00 受付 9:30 開校式 10:00 民謡体験講座 12:00 昼食 13:00 合唱集落の防災講義 14:30 放水体験 16:00 村上家見学 17:00 和紙作り体験 18:00 夕食 19:00 「五箇山の歴史」講義 20:00 レクリエーション 8月11日 8:00 朝食、清掃 9:00 移動 11:00 民謡体験講座 11:30 閉校式 12:00 学校着	● 防災委員会コーナー作成の説明。 ● 役割分担(担当する回、展示案の提出方法や期日、当日の説明担当割り振り) ● 宣伝用ポスターの作成について
ツール(特別に用意したもの)	テキスト	● 水槽等液状化実験用品 ● 防災知識のDVDとTV ● 色画用紙、マジック、段ボール、テープ等展示用品
場所	相倉合唱集落、こきりこ館、	「巖浄閣(学習室)」

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	第9回防災委員会「心肺蘇生法講習」	
実施日	平成19年1月19日	
所要時間	45分	45分×2
達成目標	● 非常時に備え、防災委員がAEDの使用目的等を学び、使用方法を習得する。	
生成物	記録写真	
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 救命救急士から、心肺蘇生法の説明を受ける。 ● 使用方法の実演をみて、理解し手順を覚える。 ● 心肺蘇生法を体験し、修得する。 	
ツール (特別に用意したもの)		
場所	「巖浄閣(学習室)」	

VI実践後

<p>参加者へのアンケート結果</p>	<p>防災委員の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後30年から300年以内に、砺波平野断層帯東部にM7.2程度の地震が起こる確率が6%で、阪神淡路大震災でも0.4~8%だったことにびっくりした。少しずつでも対策を立てていかなければならないと思った。 ● すべての取り組みが初めてで、緊張もしたがとても新鮮に感じられた。放水銃が豪雪地帯では縦長になっていることや屋根の勾配が急であること、そして、屋根雪と地上の雪との隙間を必ず空けておくことが家が潰れないために大切であることなどいろいろな知識を得ることが出来た。 ● 五箇山は家自体が文化遺産なので、家の傍に放水銃があり、また家の柱が雪の圧力に耐えるため、わざと湾曲しているものを使用するなど、自然をうまく利用した工夫がみられ、興味深かった。 ● 五箇山の貯水のタンクや車庫も、文化財の景観を壊さないように地下にあることや、放水銃で水の膜を作り、被害の拡大を防ぐことを実演されたのはおもしろかった。 ● 巖浄閣もライトアップされ地域の方々に鑑賞してもらっている。重要文化財を受け継いでいきたいという想いを巖浄閣の保存にも生かしたい。また、巖浄閣の放水銃も一度生徒が使用しておいた方がいいと思う。 <p>等、積極的に防災に取り組み、文化財を守っていこうとする姿勢が養われた。</p>	
<p>成果として得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 福野高校の歴史や、液状化現象の理解、世界文化遺産の防災、クロスロード、心肺蘇生法講習等を通じて、地元の断層の危険性、非常時の対処について学ぶ中で、文化財に愛着を持ち、親しみ守っていこうとする態度が養われたように思う。 ● 避難訓練で地震対策を取り入れたり、体育大会で防災レースを行い防災に対する意識を高めた。 	
<p>成果物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回~第9回防災委員会の自作テキスト（指導資料）とまとめ ● 記録写真 ● 巖浄閣企画展と郷土文化講座（第7回防災委員会）の新聞掲載記事 ● 巖浄各企画展と文化展（第8回防災委員会）の案内 	
<p>広報方法</p>	<p>広報した先</p>	<p>北日本新聞社 富山新聞社</p>
	<p>広報の方法</p>	<p>FAX</p>
	<p>取材にきたマスコミ</p>	<p>北日本新聞社 富山新聞社</p>
	<p>広報された内容（掲載された記事・番組等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本校OBの3氏の業績を題材にした企画展の紹介 ● 「郷土の文化に触れる」という題で企画展の紹介
	<p>成功点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 企画展や第7回防災委員会のように、新聞に掲載されて外部にPRできたことにより、地域に巖浄閣や郷土の文化を紹介することができた。また、生徒たちにとっても活動を認めてもらえたことで、雰囲気盛り上がった。
	<p>失敗点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● この活動を最初からマスコミにPRしておき、生徒の活動を地域に紹介してもらえば、生徒たちの意気も上がり、防災の意識も地域に広がったかもしれない。

<p>全体の感想と 反省・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災委員の生徒たちは、忙しい中、自分の都合より優先して取り組んでくれ、良く努力してくれた。 ● よりたくさんの生徒が、講演のような受け身の形ではなく、積極的かつ自主的に活動できるように、前期と後期でメンバーを入れ替え、同じように防災についての取り組みをさせるなどの工夫をすれば良かったと思う。 	
<p>今後の予定</p>	<p>来年度以降の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 巖浄閣の減災について、ロッカーの固定や戸棚の中の展示物の固定等、毎年少しずつ費用の範囲内で行っていきたい。
	<p>是非実施してみたい 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● まだ生徒の間に親しまれているとは言えないが、学年集会や講演、文化展時の特設ステージ等を設けてみたい。 ● 自分たちのものは自分たちで守るという意識を高めるためにも、生徒防災委員による巖浄閣の放水訓練を行いたい。
<p>自由記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● クロスロードはクラス単位で行っても楽しく意見交換が出来た。HRや総合の時間等を利用して取り組めば、予習などの下準備も不要なので楽しみながら防災について、生徒に意識づけられる。 ● 巖浄閣は文化財ということから、防災のためにといえ、釘を打つことが制限されるので、減災の方法も限られてくる。 ● 改修工事の際、耐震棟が南北に設置され、地震対策がとられた。施設や設備、構造上の問題点を指摘し、それを修復していく知識や技術はないが、巖浄閣が昔の福野高校であったというだけでも在校生やOBには親しみがわく。さらに利用を増やし愛着を深めていってもらうことが必要である。 ● 生徒がボランティア活動で清掃活動をすると、そこを自分では汚さなくなるように、生徒が中心となって、少しずつ減災の工夫を施していけば、卒業しても自然と思い出に残り、地域の住民として、巖浄閣を大切に思う気持ちが広がって行くと思う。 	